

アイヌ語とハワイ語の気象語彙に関する 対照研究について*

松名 隆・塩谷 亨

Contrastive Study on Meteorological Vocabularies in Ainu and Hawaiian

Takashi MATSUNA and Toru SHIONOYA

キーワード：気象語彙 アイヌ語 ハワイ語

1. 研究計画の概要

現在、アイヌとハワイという環境が極めて異なる土地をとりあげて、雨・風語彙システムに的を絞った比較対照を行うという研究計画を進めている。このような対照研究により、アイヌとハワイの文化について、そして雨・風と人間との関わりについて新しい事実を見出せる可能性があると考えている。

今回の発表ではこの研究の中間報告として、アイヌ語とハワイ語の気象語彙の特徴について概観する。

2. 生活と密接に結びついたアイヌ語の気象用語（表現）のいくつかについて

2.1. 雨にまつわる用語（表現）

アプト [apto]：雨

- ・チセフライェアプト [cise-huraye-apto]：cise（家）・huraye（洗う）・apto（雨）

家洗いの雨：新築した家に最初に降る雨のこと

解説：茅葺のチセにとって、新築した後の最初の雨は特別の意味を持っていた。すなわち、その最初の雨が屋根の雨漏りのする補修すべき箇所を教えてくれたのである。

- ・キムンカムイポフライェプ [kim-un-kamuy-po-huraye-p]：kim(山)・un(いる)・kamui(神)・po(こども)・huraye(洗う)・p(もの)

山の神・熊の子供を洗う雨：2月に降る雨

解説：熊は冬に子供を産み、穴のなかで雪解けまで暮らすが、子供が生まれた後の2月に降る雨が雪を固めてくれるため、その時期に熊狩り

が行われた。母熊を殺したあとに残された小熊はコタン(集落)で育てられ、1～2才になった頃イヨマンテ(熊送り)が行われた。

ハハラプチュプ オッ タ アシ アプト アレコ ヒ
haprapcup or ta as apto a=reko hi
キムンカムイポフライェフ セコロ アイェ ヲ ネ ワ。
kimun kamuy po huraye p sekor a=ye p ne wa

(二月に降る雨の名前は、山の神・クマが子供を洗うものというものだ。)

- ・ シンルプシカフ [sir-rupuska-p] : sir (大地)・rupuska (凍らせる)・p (もの)

チュク イヨッタ イヨシノ アシ アプト シンルプシカフ セコロ
cuk iyotta iosino as apto sir rupuska p sekor
アレコ ヲ ネ セコロ カネ クシュートホ エネパカシヌ ヲ ネ ア
a=reko p ne sekor kane ku=siwtho en=epakasnu p ne a
ワ。
wa.

(秋の一番終わりに降る雨のことを、大地を凍らせる雨という名が付いてものだと、私の舅が、私に教えてくれたものだった。)

2.2. 雪にまつわる用語 (表現)

ウパシ [upas] : 雪 u(互いに)・pas(走る) : 雪は天からアイヌの村に競争して遊びに来ると考えていた。

ウパシ アナクネ リクンカント ワ アイヌモシルン ウホユッパレ ワ
upas anakne rikun kanto wa aynu mosir un uhoyuppare wa.
シノツエエク ペ ネ ルウェ ウン。
sinot-e-ek pe ne ruwe un.

(雪というものは、天の国から人間の国土へ競争して、遊びに来ているものなのだよ。)

- ・ アイヌライケウパシ [aynu-rayke-upas] : aynu(人間)・rayke(殺す)・upas(雪)
人殺し雪

解説 : かつては、このような言い方の激しい雪が降ると、必ずのようにどこそで凍死者が出たという話が聞こえてきたそうである。

- ・ サンカラリフ [san-ka-rari-p] : san(棚)・ka(上)・rari(おさえる)・p(もの)
魚を簾状に干してある上に降った雪

解説 : かつてのアイヌにとって鮭(カムイチュフ: 神の魚)をはじめ魚は重要な食料であった。ここではシシャモ(スサム)のような小魚を保存のために干してあるところに降る雪を表し、雪の冷蔵・冷凍機能の重要性と季節感がともに表現されている。

- ・ トルルカラリフ [torur-ka-rari-p] : torur(山積みの魚)・ka(上)・rari(おさえる)・p(もの)

シシャモを獲って山積みにしてある上へ降った雪

- ・ウカ [uka] : 堅雪

マタ ホントム タ アプト アシ オカケ スイ メアン コロ ピリカ
mata hontom ta apto as okake suy mean kor pirka
ウカ アン。
uka an.

(冬の半ばに雨が降った後、再び寒くなると、丁度よい堅雪になる。)

- ・ペラッネウパシ [peratne-upas] : peratne (一重)・upas (雪)

パイカラ アン コロ ペラッネウパシ アシ ランケ。
paykar an kor peratne upas as ranke.

(春になると、淡雪が度々降るものだ。)

- ・コムコムウパシ [komkom-upas] : komkom (小鳥の胸の柔らかい毛)・ups (雪)

コムコムウパシ アシ ヤッカ ナーニ ル ワ イサム ペ ネ ワ。
komkom ups as yakka nani ru wa isam pe ne wa.

(綿雪は、降ってもすぐに溶けて無くなるものだ。)

3. ハワイの気象語彙の概観

3.1. hau という単語の意味

ハワイの天気にはどんなものがあるだろうか。晴れの日、雨の日、曇りの日があることは容易に想像が付く。しかしそれだけではない。意外なことにハワイにも雪が降るのである。ハワイ島の最高峰の頂上には実際に雪が降るのである。ハワイには雪の神様もいることから、ハワイ人たちが昔から雪の存在を知っていたことは間違いない。雪があるということは、当然雪という単語がハワイ語固有の単語として存在する。それが hau である。hau という単語が「雪」という意味を表すことは間違いない事実であるが、実は hau という単語は多義語である。ハワイ語は多義語が多いとしばしば指摘されるが、この hau もその例に漏れない。hau の主な意味を下に列挙する

hau	ハウノキ (オオハマボウ) 植物の名前
	雪、氷、露

このように hau という単語は植物の名前でもある他に、雪、氷、露という意味を表す単語である。言い換えると、ハワイ語では「雪」、「氷」、「露」の区別をしないということである。実際に、ハワイ島のマウナケア山の上に降る雪は hau であるし、ハワイ名物のカキ氷は hau momona 「甘い氷 (momona は「甘い」)」であり、「雪」と「氷」の間に単語上の区別がないことは確かである。

一般に人々の関心が高い分野では緻密な単語区分が、関心が欠落している分野ではおおまかな単語区分が現れる傾向があると言われる。ハワイに雪が降るといっても、ごく

一部地域でしかも高い山の上で人々が普段生活している場所ではない。従って、人々の「雪」に対する関心も高くは無かったのではないかと考えられる。実際、せいぜいふもとかから白くなった山の頂を眺めるだけでは、それが「雪」か「氷」かは大きな問題ではないだろう。

では、ハワイの人々が高い関心を持つ気象現象とは何であろうか。それは雨と風であると考えられる。古くから農業をしていたハワイの人々にとって雨は農業に影響する重要な気象現象である。また帆の突いたカヌーで漁業をしていたハワイ人にとって風が漁業に大きく影響する重要な自然現象であったことも容易に想像が付く。また、雨と風の量が多ければ、伝統的な草葺のハワイの住居では雨風の備えをしなければ行かない。このように雨と風は重大な関心事だったと考えられる。その関心の高さは雨や風に関する豊富な語彙に反映されている。

3.2. 一般的な雨と風の分類

ハワイ語で雨を表す単語は **ua** であるが、更にいろいろな種類の雨を表す単語の例として、**kili**「霧雨」、**ililani**「天気雨」、**lelehuna**「風に吹かれた雨のしぶき」、**pakakū**「大粒の雨」など、かなり細かい区別がなされている。

風についても同様である。現在でもハワイの人々の生活に最も密着している風が二つある。北東から吹く貿易風と、その逆の南風の二つである。この二つのどちらが吹くかによって天気がほぼ決定するため、極めて身近で重要な存在となっている。風を表すハワイ語の単語は **makani** であるが、これら二つの重要な風にはそれぞれ **Moa'e**「貿易風」と **Kona**「南風」のように名前が付いている。この二つの風について更に細かい分類を表す単語として以下のようなものがある。

Moa'e 貿易風 北東から吹く風	Moa'e Lehua	Moa'e 風の一種(詳細情報なし)
	Moa'e Pehu	強い Moa'e 風
	Kaiāulu	心地よいそよ風の Moa'e 風
Kona 南方から吹く風	Kona Kū	大雨を伴う Kona 風
	Kona Lani	にわか雨を伴う Kona 風
	Kona Hea	冷たい Kona の嵐
	Kona Hili Mai'a	長引く雨を伴った Kona 風 「バナナを打つつける Kona 風」

このようになんか細かい区別がなされている。

3.3. 特定の場所と結びついた雨と風の名前

実際には、ハワイ語の雨や風を表す言葉は100を越えると言われている。前節で例

示したような雨や風の様態の分類だけではそのような数の単語が必要とはとうてい思われ
ない。では、どうして100を超える名称が存在するかといえば、特定の場所と結び
ついた雨や風の名前が多数存在するからである。例えば、同じ霧雨でも、ある場所に降
るものは Kanilehua と呼ばれ、別の場所に振るものは Kuahine と呼ばれる。日本語など
では、同じ種類の風の名称に方言差があることがしばしば指摘されるが、ハワイ語の場合
にはそうではない。その場所固有の雨や風の名称が決まっているのであり、その意味で
は、固有名詞的な雨や風の名称が多数存在するということである。

以下に特定の場所と結びついた雨と風の名前の例を示すが、これはほんの一部に過ぎ
ない。

Hehipuahala	タコノキの花を踏み つける	カウアイ島ポオクー地区の雨
He'enehu	ネフ（かたくちいわ し）が泳ぐ	ハワイ島ヒロ沖にネフが泳ぐ頃に見られる 霧雨
Kanilehua	レフアの花がのどを 潤す	ハワイ島ヒロ地区の霧状の雨
Kinailehua	レフアの花を静める	ハワイ島パナエヴァ地区の雨
Koholā Lele	ジャンプする鯨	ハワイ島ハーマークア地区、マウイ島ハナ 地区の東から西へ吹く風
Kuahine	伝説上の女性の名	マーノア地区の霧状の雨
Kuehu Lepo	土を巻き上げる	ハワイ島カウー地区ナーアーレフ、オアフ 島の風
Lanipa'ina	割れる天	マウイ島ウルパラクア地区の雨
Lena	黄色	カウアイ島ハナレイ地区、マウイ島の黄色 く染まった雨
Līlīlehua	レフアの花が寒さで 震える	オアフ島パロロ地区、マウイ島ワイエフ地 区の雨及び風
Lūlaukō	サトウキビの葉を散 らす	カウアイ島の雨
Moaniani Lehua	レフアの花の香りが 漂う	ハワイ島プナ地区の霧状の雨
Mololani	世話の行き届いた	オアフ島カハルウ地区の雨及び風
Pa'ūpili	ピリ（草の一種）を 湿らす	マウイ島ラハイナ地区の雨
Po'olipilipi	刃のような頭	オアフ島カリヒ地区、ハワイ島ヒロ地区の 大雨

Uamakalaukoa	コア（木の一種）の 上の雨	オアフ島ヌウアヌ地区の雨
‘Ulalena	黄赤色	マウイ島ハイクー地区、オアフ島カアラ山の赤みがかった雨
‘Āpuakea	伝説上の美女の名	オアフ島コオラウポコ地区の雨

このように特定の場所と結びついた雨と風の名前の例は多数存在するが、その名称の付け方は非常に詩的なものが目に付く。Kuehu Lepo「土を巻き上げる」のように描写的なものもあるが、Kinailehua「レファの花を静める」のように比喩的なものが圧倒的に多い、また、Kuahineのように伝説や神話にちなんだ名称もある。その一方で、季節に結びついた名称があまり見られないのは、日本ほど季節の差異がないハワイならではなのかもしれない。

謝辞

* 室蘭認知科学研究会第44回大会出席者の皆様には有益なコメントを多数いただいたこの場を借りて謝辞を申し上げたい。

参考文献

萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典（増補版）』（三省堂、2002年）

萱野茂（編）『アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol.3（平成10年度版）』（1998年）

Pukui, Mary K., and Samuel H. Elbert. Hawaiian Dictionary. Honolulu: University of Hawai‘i Press. (1986)

執筆者紹介

所属：室蘭工業大学共通講座

Email：pine@mmm.muroran-it.ac.jp(松名)、shionoya@mmm.muroran-it.ac.jp(塩谷)